

【エクアドル内政・外交：2009年2月】

1. 概要

- 2月2日 コレア大統領、ベネズエラ訪問
- 5日 総選挙立候補者登録締切
- 10日 ファルコニ外務大臣、ウルグアイ訪問
- 11日 ファルコニ外務大臣、チリ訪問
- 12日 ファルコニ外務大臣、ペルー訪問

2. 内政

(1) 次期大統領選挙への出馬登録

5日、国家選挙審議会(CNE)は、総選挙への候補者登録を締切った。大統領・副大統領選挙への立候補登録は10組であったが、同審議会が全登録者の出馬要件確認を行った結果、トレス候補者及びゲレロ候補者は、登録資格に欠けるとし認められなかった。

	大統領候補	副大統領候補	所属政党・政治運動組織
1	カルロス・ゴンサレス	フリオ・プロセル	平等・連帯運動 (Movimiento Justo y Solidario)
2	ラファエル・コレア	レニン・モレノ	国家同盟 (Movimiento PAIS(Patria Altiva i Soberana))
3	アルバロ・ノボア	アナベラ・アシン	国家行動機構改進黨 (PRIAN)
4	ルシオ・グティエレス	フェリペ・マンティージャ	愛国協会党 (PSP)
5	マルタ・ロルドス	エドゥアルド・デルガド	倫理と民主主義(REDE)と民主極運動 (Movimiento Polo Democrático)の連立
6	ディエゴ・デルガド	メントル・サンチェス	統合・社会変革運動 (Movimiento de Integración y Transformación Social)
7	メルバ・ハコメ	リカルド・グアンボ	肥沃な土地運動 (Movimiento Tierra Fértil)
8	カルロス・サグニヤイ	セグンド・ブエノ	千回の勝利運動 (Movimiento Triunfo Mil)
資格無し	ルイス・フェルナンド・トレス	ミゲル・パラシオス	変革運動 (Movimiento Cambio)
資格無し	パブロ・ゲレロ	オルファ・ブカラン	大衆力結集運動 (Concentración de Fuerzas Populares)

(2) 人事

(a) 内務・警察大臣

3日、ブスタマンテ(Fernando Bustamante)内務・警察大臣は、次期総選挙に、与党・国家同盟(Alianza Pais)所属全国区国会議員候補として出馬するため辞任した。

同日、アブリル(Felipe Abril)内務・警察副大臣が、内務・警察臨時大臣に就任した。アブリル臨時大臣は社会学者であり、地方政府やNGO団体の社会分野における顧問及び国内対外安全調整大臣の顧問を務めた経歴を有する。

(b) 住宅都市開発大臣

3日、ドゥアルテ(Maria de los Angeles Duarte)住宅都市開発大臣は、同大臣職を辞任し、次期総選挙においてグアヤキル市長選挙候補者として出馬する意向を表明した。

3. 外 交

(1) 対ベネズエラ関係

2日及び3日、コリア大統領はベネズエラを公式訪問した。ファルコニ外相、ラミレス大統領府計画開発担当大臣、カベサ・デ・バカ生産調整大臣、ボルハ戦略部門調整大臣、ビテリ財務大臣、パラシオス鉱山石油大臣及びアバド工業競争力大臣が同行した。

2日、コリア大統領は、チャベス・ベネズエラ大統領就任10周年祝賀行事に出席した。

3日、コリア大統領は、チャベス大統領と第4回二国間首脳会談を行い、両首脳は両国が過去2年間に署名した協力協定の進捗状況につき協議した。

同日、コリア大統領は、マリスカル・スクレ生誕214周年記念式典に出席した。

(2) 対ペルー関係

12日、ファルコニ外相はペルーを公式訪問し、ガルシア・ベラウンデ・ペルー外相と会談するとともにガルシア・ペルー大統領を表敬した。

両外相は、世界金融危機がラテンアメリカに与える影響につき分析し、同影響緩和措置に関する協力姿勢を確認した。また、ペルー・エクアドル二国間委員会(Comision de Vecindad Peruano-Ecuatoriana)の重要性を確認し、本年5月に同委員会の第8回会合をペルーで実施する旨合意した。

(3) 対コロンビア関係

25日、スクンビオス県のコロンビア国境付近において、パトロール中のエクアドル陸軍部隊がFARCの兵隊と遭遇し、銃撃戦となった。約1時間の銃撃戦の後、FARC8名はコロンビア領に撤退した。この銃撃戦による死傷者なし。

2008年3月1日に発生したコロンビア国軍によるエクアドル領内FARCキャンプ空爆以来、国境付近はFARC及びコロンビア国軍による領土侵犯を警戒するため1万500人のエクアドル軍兵士が配置されている。

(4) 対ウルグアイ関係

10日、ファルコニ外相はウルグアイを訪問し、フェルナンデス・ウルグアイ外相と会談。二国間プロセスのフォローアップ実施及び地域統合に関するエクアドルの立場を説明し、二国間関心テーマ、世界的経済危機、南米諸国連合(UNASUR)強化プロセスやコリア大統領が提唱しているラテンアメリカ・カリブ諸国機構(Organizacion de Estados Latinoamericanos y del Caribe)の創設を含む地域統合等につき協議した。

(5) 対チリ関係

11日、ファルコニ外相はチリを訪問し、Alberto Van Klaverenチリ外相代理と会談。二国間プロセスのフォローアップ実施及び地域統合に関するエクアドルの立場を説明し、二国間関心テーマ、世界的経済危機、南米諸国連合(UNASUR)強化プロセスやコリア大統領が提唱しているラテンアメリカ・カリブ諸国機構(Organizacion de Estados Latinoamericanos y del Caribe)の創設を含む地域統合等につき協議した。

(6) 対米国関係

1月8日、米国大使館アストルガ(Armando Astorga Jr.)理事官(移民担当)はウルタド(Jaime Hurtado)国家警察長官に対し、国家警察のインテリジェンス機関である麻薬対策管理局(COAC:Centro de Operaciones Anticontrabando)の人事異動に関し、米国大使館の調整及び承認無しに行ったことを不服とし同局への経済協力協定を破棄する旨通告した。米国大使館

は同局に対し年間 34 万ドルをコンピューター、家具、自動車等の必要物品購入費として供与していた。

7 日、コリア大統領は同理事官に対し、当国から 48 時間以内の国外退去宣告を発動するよう、ファルコニ外相に命じた。しかし、同理事官は 1 月を以て離任し、既に当国を出国していた。

9 日、国家警察は麻薬対策管理局(COAC)に供与されたコンピューター、家具、自動車等の物品を米国大使館に返還した。

米国大使館サリバン(Mark Sullivan)一等書記官が同局の人事異動につき不服申し立てしていることに関し、2 月 18 日、ファルコニ外相及びハルク国内対外安全調整大臣は国家安全審議会(Cosena)において、同書記官に対し“ペルソナ・ノン・グラタ(Person no grata)”宣告を発動し、48 時間以内の国外退去を命じた。

(7) 対中国関係

13 日、モレノ副大統領は、当国を訪問した回良玉(Hui Liangyu)中国国務院副総理と会談した。同副総理の訪問はこれまでに当国を訪問した中国政府要人中最も高位の要人訪問であり、客年 11 月のコリア大統領の中国訪問に引き続き、二国間関係強化に寄与するものであった。同副総理には、宋濤(Song Tao)外交部指導メンバー等 20 名が同行した。

モレノ副大統領は回良玉副総理とともに 4 件の二国間協力協定に署名した。これら協定は、合計約 2,500 万米ドルの対エクアドル無償・有償資金協力を可能にするものである。

※以上は、当地新聞情報をとりまとめたものです。